

四年生の社会科では、
地域の人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を調べ、まとめる単元があります。

そこで、子どもたちは、明治時代の野田村の「河合為次郎」さんのことを調べました。学校の図書館で調べたり、市民館の銅像を見学したりしました。そして、お家の人から聞いたことも加え、模造紙にまとめました。

単元の終わりには、瓜生徳男さん（平成十一年く十六年の間 大総代）をお招きし、昔の野田の様子について話していただきました。



平成二二年一月二五日

野田小学校 会議室

四年生「ふるさと野田」

講演記録 元大総代 瓜生徳男氏

先生に頼まれて、河合為治郎さんに関するお話をします。みなさん、河合為治郎先生についてもう勉強していますね。銅像があるのを知っていますか。あの市民館の前に。この近くにも銅像がありますが、どこにあるか知っていますか。

「二宮金次郎さん」

うん、そうだ。二宮金次郎。この為治郎さんと二宮金次郎さんと、ものすごい関係が深いんです。二宮金次郎さんが先生とすると為治郎さんは子どもぐらいの違いがあります。金次郎さんが日本的に偉い人、金次郎さんの教えを為治郎さんがいろいろ実行して、それでこの村を救って、偉くな

った人。金次郎は大きくなって二宮尊徳となりました。五百ぐらいの地域が生活が苦しくなって、五百ぐらい助けた。やり方でもあのようないことをしなさい、このようないことをしなさいと。地域がみんな真剣に働いて、お金が貯まるようになって生活が楽になった。それで為治郎さんは、合併する前の野田村、いろいろなことをして皆さんの為になったことをした、そして村の者が感謝の気持ちをつつまでも続けるということで銅像ができました。それから、この金次郎さんの銅像は為治郎さんの子どもが古い校舎のときに銅像を造ってくれました。為治郎さんの銅像も金次郎さんの銅像も、日本が太平洋戦争、アメリカと戦争をやったときに鉄の輸入を止められていたので、鉄のものがなくて「供出」といって国へ出したのです。お寺の釣り鐘とかも全部出したのです。それが鉄砲になったり大砲の弾になったりしました。そして、

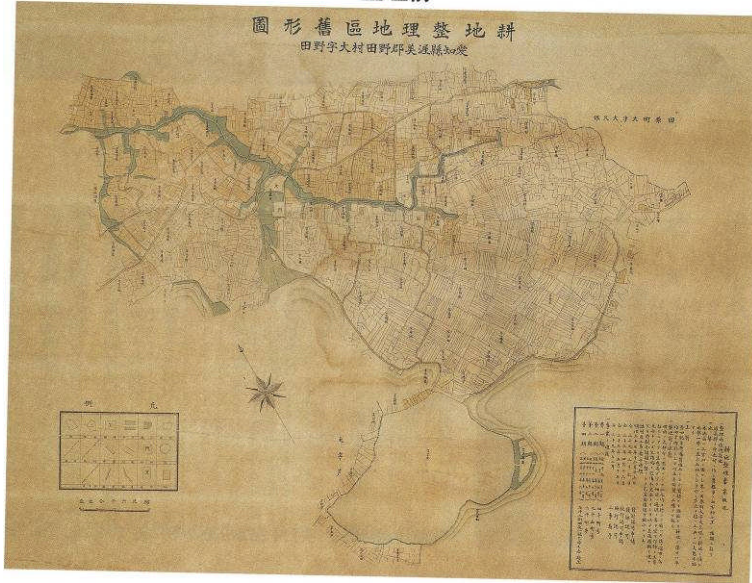
戦争が終わってから村の人たちが為治郎さんの銅像を作りました。金次郎さんの銅像は、古い校舎を造った昭和四十九年に為治郎さんの孫が造ってくれました。学校がこちらに来たので、こちらに来ました。そういうことで非常に関係が深いんです。為治郎さんの家は農家でした。お父さんが農家をしてお米を作っていました。彦田でした。彦田の集会所の隣の家です。ここで農業で作物を作る勉強やいろいろと地域のために働いた人です。それで二十六才のときに彦田の総代になりました。そして、野田村の役をいろいろやっています。三十九才で村長さんになりました。村長さんを三回やりました。最初が九月、その次が四年、その次が二年やっています。そして村長を辞めてから、耕地整理といって田んぼを作業がしやすいように、でこぼこを直したりしました。その一番の責任者として、それでそれが終わってか

ら、「神饌田」といって、明治神宮とか伊勢神宮とか、昔の天皇陛下の関係のお宮さんへ、お米とか麦とか粟とか作ってお供えする田んぼを為治郎さんは寄附をしました。村の人たちが田んぼでお米を作ってそれを伊勢神宮へお米を寄附した。そういう一番の責任者でした、一番名誉なことでした。みんなのためになるように、学校の関係の仕事とか、農協の仕事とか、土地改良の仕事とか、行政の仕事とか、みんなのための仕事ばかりしていた。それでみんなが銅像を造りました。為治郎さんが亡くなってから銅像を造った。野田で一般の人間が、お神様になった。新しい神社の横にほこらがあります。そこにお祀りしてあります。為治郎さんは八十一才まで生きて、為治郎さんには子どもが男の子と女の子の二人がいます。長男が頭がよく、時習館高校へいって、アメリカに留学をした、当時は船でアメリカへ一ヶ月ぐらい

かかりました。それから、今の中国へ行って先生をやっていたのですが、病気になるって二十五才のときに帰って来て亡くなってしまいました。それで、娘さんに養子をもらって、為治郎さんのあとを継ぎました。養子の方は猿投農林高校の校長先生、終戦後、福江中学の初代の校長先生になりました。その息子さん金次郎の像を寄附しました。野田というのは、仁崎と芦は野田ではありません。仁崎は仁崎村、芦は芦村でした。野田の耕地整理は、芦ヶ池の水がかかる範囲を耕地整理をしました。仁崎と芦は野田より後から耕地整理をしました。どうして耕地整理をしたのかは、江戸時代に田原にお殿様がいて、お殿様の言うことを聞いていました。作ったお米の四割をお殿様に差し上げていました。それに今よりもお米がとれないので、皆さん四年生だから面積を知っているかな。十アールは、一ヘクタールは分かれますか。

小学校の運動場の広さが一ヘクタールです。今から面積的なことを言いますから頭に入れておいてください。整理した面積が三百ヘクタールです。運動場の三百個分です。その耕地整理は、渥美半島でも愛知県でも一番ぐらいでした。早く整理をした地域として。お殿様の時代に田原の殿様の一万石の三千石、「石」は分かんないかな。お殿様の三分の一以上を野田が上げていました。そして、お殿様はお城を持つことができず。それだけ野田はお米がとれるところでした。たくさんお殿様にお米を上げていました。働く人の生活が非常に苦しかった。みなさん歴史を習うと、今はみんなが平等ですが、昔は士農工商といって、侍が一番偉い、その次は農家、その次は工場で働く人、それから商人。人間に階級が付けられています。そして、侍の言うことは絶対に従ってはいけませんでした。その

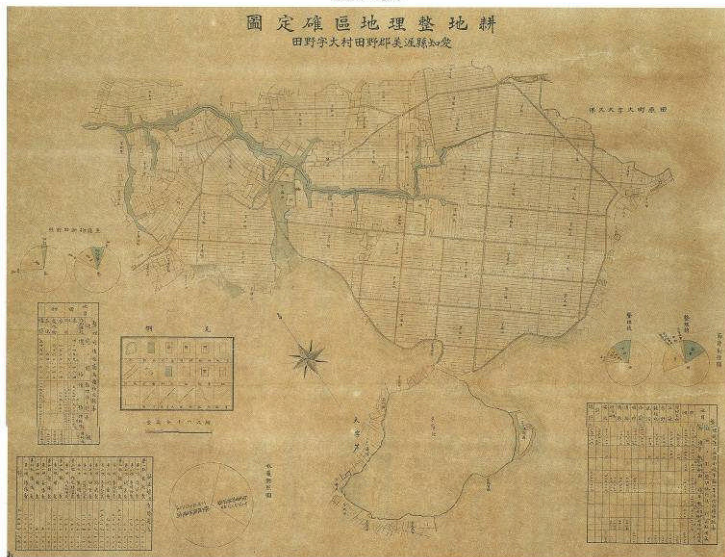
整理前



のお金に直すと三十億ぐらいかな。それだけ莫大なお金がかかっています。銀行から借りて、それでこれを行ったのです。それで、これと同時に米を作るのに大切なのは「水」、「水」がなければ米はできない。田んぼに水を引く、その水は芦ヶ池、芦ヶ池の堤防を七十センチ上げた。野田の方は

水が貯まってるいい。芦の方は、田んぼが沼になってしまふ。芦と野田はいつもけんかをしていました。芦の方の田んぼは、芦ヶ池に水が貯まってるのと米が作れなかった。芦ヶ池の水を下げたしまうと、夏に野田の田んぼがカラカラになってしまつて困るの、芦とけんかして、竹やりをもつて為治郎さんに家に押しかけましたということもたびたびありました。こういう整備をしたために、昔は食べるのも米が中心、お金になるのも米でした。野菜や花を作っている人はあまりいませんでした。一年にお米を百二十キログラム、今は皆さんは一年に六十キログラムです。昔は倍のお米を食べていました。その代わり肉も魚も油もそういうものはなかったの、全部栄養を米でとっていました。経済、お金に変わるのはお米だけで、お米が一番大切なものでした。新しい方の図のように長方形にして、水路は水路、排水路は

整理後



排水路、ちやうど今の田んぼみたいな、この時に作ったのが今の田んぼなのです。今から三十年ほど前に、もう一度やり直しをしました。道とか排水路は広げたり大きしたりしましたが、田んぼはそのままの形です。畦をとって大きな田んぼにしたところもあります。形は百年前と変わっ

ていません。こういう形にしたのは、お米を作るのに時間を少なくするためなのです。昔は、牛ではなく全て手で起こして、手で運び出していました。お米を六十キログラム作るのに六十六時間ぐらいかかっていました。六十六時間という十時間働くと、六・六人の人が一俵のお米を作るのに時間がかかることになりました。新しい方の図だと運び出すのに時間が少なくて済みます。水も近くまで水路が来ていますし、牛でもやれるようになります。六十キログラムのお米を作るのに十五時間ぐらい少なくて済むようになりました。それで、その少なくなつた時間を麦、芋だとか、山へ行って芝を刈ったり、他の仕事へ回しました。昔は田んぼの中に小さい畑がたくさんありました。それで、耕地整備で畑も全部田んぼにしてしまった。田んぼが七十ヘクタール増えました。そのためにお米がたくさんとれました。村全体の収入が

三割ぐらい増えました。古い方は、お金にすると野田じゅうの収入が六万円ぐらいしかなかったのです。耕地整備後は十万円近くにも収入となり、もうかるようになりました。明治から大正にかけて日本中から野田へ大勢の人が勉強に来ました。日本中が、こういった整備を始めました。できあがって明治に野田は良いことをしたと国から立派な事業をしたと表彰をされています。国から五百円のお金ももらっています。今でいうと五百万円ぐらいです。

(「野田史」をみんなに見せて)

みんなこの本を知っているかな。

一ページ目に為治郎さん載っています。

ここに「野田の歌」があります。昔の野田の歌です。今は、やりませんが、毎年の運動会で衣装を着て六年生が踊っていました。今は衣装がなくなったので、やっていないと思います。伝統の踊りでした。

田原市の中での野田は先へ先へと良いことを取り組む町でした。みんなが前向きな考え方に立つて、仲間も良くなるし、まとまりがよくなるのです。

野田の歌

作詞 本多 堅

- 一、春さざ波の 芦ヶ池
つつじ花咲く 仁幸山
ここに立ちたる 六百戸
知らずや 天下の模範村
- 二、ああ見よ馬草の 海岸に
かもめ飛びかう 夏の日を
ここに体を 練えんと
産声ありし 四千人
- 三、塔ヶ山頂 月澄みて
黄金波打つ 沖田には
平和の秋の みなぎるを
誰か歌わん ものやある
- 四、村社境内 風寒く
社頭の杉の 色黒く
ふもとにつどろ 六百の
健児の意気や 天をつく
- 五、明治四十三年の
二月二十五日こそ
吾等が村の 表彰日
祝え村人 もろともに

内閣総理大臣から表彰されて、野田は百

なが前向きな考え方に立つて、仲間も良くなるし、まとまりがよくなるのです。野田は明治四十三年、これができたときに国から表彰を受けて、もう一回、田んぼを大きくして、生活環境を整えました。昭和五十七年には、また、

年の間に国から二回表彰をされていま
す。みなさんは今、十才ですね。大きくな
ると歴史を勉強して、昔の大人の人みた
いに立派な人になるように真剣に勉強し
てもらいたい。

話しが少しありますが、私が小学校四
年生のときは、戦争がちやうど負けた年
です。食べる物が何もない、運動場を起
して芋を作りました。そして芋は給食で
出されました。戦争に若い人がみんな行
たので、小学校四年生、五年生、六年生
が麦を刈るのにみんな学校を休んで手伝
に行きました。勤労奉仕で、お父さんがい
なくて、おばあさん、お母さんではできな
いので、四年生以上がお手伝いに行きまし
た。みなさんは家で仕事をしていないでし
ょう。ゲームとテレビだけでしょう。おじ
いさんのときは、みんな働いていました。
学校から帰れば家の仕事をしていました。
田植えの時期になると一週間学校を休ん

で、家で田植えの手伝いをしました。みな
さんは後五十年すると十才の時の記憶はほ
んどなくなりません。よっぽどの何かがな
い限り覚えておくことは無いと思います。
おじいさんは戦争で空襲警報が鳴るとみ
んな家へ帰されました。警戒警報といっ
サイレンが鳴るとみんな森へ隠れました。
川には大きな木がありましたので、そこへ
逃げました。サイレンが鳴るとアメリカの
飛行機が来て爆弾を落とすといかんで、そ
して空襲警報が鳴るとみんな家に帰りま
した。時代が緊張しているときでした。
一つ間違うと死んでしまうという意識が
働いていましたので、その当時のことは
非常に覚えてあります。小学校四年生、ち
ょうどみなさんと同じときです。みなさん
は、今、食べたいときに何でも食べられる。
行きたいところへもお母さんにねだって行
ける。
着るものも服はなかったんで、お蚕を

飼うときに桑の木というのがあります。そ
の葉っぱをお蚕に食べさせます。それを
戦争中に仁崎などが飼っていました。
今日は桑の皮をおきますといって学校が
全員、お蚕を飼っている家に行つて桑の
皮をおきに行つて、その皮を売つて、たく
さんとつた人が洋服の買えるチケットがも
らえました。それで始めて洋服を買えまし
た。普通は洋服は買えませんでした。着る
ものも、はくものも何もありませんでした。
はくものもくつはなくて、全部、草履です。
おじいさんがわらで草履を作つてくれて、
それをはきました。だいたい一日で子ども
は破れてしまいました。学校へはもう一足
持つてきて、二足分もっていました。そう
いう時代で、それに比べるとみなさんは
本当に幸せですよ。けれど、時代は変わ
つていくので、大人になってからは苦勞を
知っているといいと思います。食べる物が
なくなつてもね。今年の六月にベトナムと

カンボジアへ行ってきました。カンボジアは百年前の日本と一緒にでした。田んぼは全て水が貯まっていた。藁は濡れて運び出せないで穂だけ道へ出して乾かしてました。子どもをみても学校が小さいから全員学校へは行きません。午前中の部と午後との部と二つに分かれて、学校が開いていました。食べる物もないし、お金もないので、日本人が行くと何か買ってくれるとあって、何か持ってきたり、手を出してお金をねだっていました。日本の戦後と同じようでした。世界には、そういう国が多いんです。食べられない人は十億人以上、満足に食べられないで、栄養失調で、アフリカの国へ行くと毎日何千人という子どもが死んでいます。栄養失調や病気で死んでしまいます。日本ではそんな子どもは一人もいません。みなさんも真剣に勉強して、人のために働くということをしていかないと、自分が苦しむ時代が必ず来

ると思います。為治郎さんは、一人で偉くなったわけはありません。為治郎さんが中心で、あのようなことをしろ、このようなことをしろと言いい、みんなが力を合わせて、為治郎さんに協力をしてくれて、それで野田村ができたのです。小学校は、最初は仁崎にもあったんですよ。芦にも小学校があったんです。それが統合されて野田小学校一本になったんです。明治二十三年か二十四年かな、仁崎、芦、野田、大久保の四ヶ所が合併して野田村になりました。一年後に大久保は田原にいききました。野田、仁崎、芦と三つで野田村ということですよ。それで、昭和三十年に野田も合併して田原町に合併しました。そして、六、七年前にまた合併がありました。今、田原市は渥美半島の先まで。

おじいさんが学校へ入ったときは野田

むらりつのだしやうがっこう。のた村立野田小学校。野田むらりつ、村立小学校、田原町立野田小学校から、今は田原市立野田小学校、そのようにだんだんと歴史が変わっていききました。為治郎さんのことでなくても、いろいろと質問があったら、今から受けます。何でも結構です。

「戦争はいつ、終わりましたか。」

昭和二十年、西暦千九百四十五年、今から六十五年前、みなさんは昭和が分かりませんか。

(はい)

今、テレビでは北朝鮮が韓国に大砲を撃って四人死んだ。これは戦争の始まりだと思ふよ。戦争になっていくか、あれで終わるか分からないけれどね。昔は、あのようなことをすると国が、戦争。戦争って何かな。国同士のけんかを戦争といひます。日本も、じいちゃんが小学校一年生に入るときから始まったんで、昭和十六年

から五年間戦争をやりました。日本は小さい国でも世界を相手にした。最後は、広島と長崎に原子爆弾が落とされて、それで日本は降参をして、負けました。

先生、これは総合の時間ですか。

(社会の時間です)

総合はなくなったのですか。

(あります。社会の郷土の人の勉強をしています。為治郎さんを調べています。)

「昔の学校の勉強は何がありましたか。」

今とほとんど同じだけど、英語はなかった。戦争をしているときは英語は一切使った。勉強をしてみると、今の方が難しいです。昔の方が簡単でした。四年生で

英語があるでしょう。算数を見ても、国語を見ても、昔の方が簡単でした。五年生になったときの内容で、一年ぐらい今の方が進んでいます。その代わり戦争で勉強する時間が少なかったのです。学校が休みになったり、それがたくさんありました。今は田植え休みはありません。長いときには1週間お休みでした。

「もし、戦争中に、英語を使ったらどうなりますか。」

先生に叱られました。

「野球に使うグローブとバットは、何と言ったのですか。」

なんて言ったのかな。(とるものとうつものかな)戦争前には野球をやる人はいませんでした。戦争が終わってから小学校にもグローブやバットを買ってもらって、六年生のときには渥美郡の野球の大会があって、それに出ています。戦争中はなかったと思います。

「子どものときには、何で遊びましたか。」

夏は、水路にどじょうやフナを捕まえに、芦ヶ池に小さいモロコとか魚を捕まええました。秋には山に行つて栗とかアケビとかを採っていました。冬はみんなで缶蹴りとか縄跳びとかそういう遊びを、家の中で遊ぶよりもほとんど外で遊んでいました。

昔はテレビもラジオもない。小学校では六年生の子がリーダーで、市場なら市場で六年生の子がリーダーで、一年生までの子がリーダーを中心にまとまって遊びました。今のみなさんは四年生は四年生だけ、六年生は六年生だけでバラバラで遊ぶ、昔は全部かたまって、そういう遊びをしました。

「勉強も六年生中心でやるのですか。」
勉強は先生がいて、一年生、二年生、それぞれ別々。

「冬は、どうす「しましたか。」

暖かくなかったので、綿の入ったものを着て、着るものがないので、外へ出ては走っていました。今はストーブとか暖房器具がありますが、昔はありませんでした。火鉢といってね。燃やしたものでご飯を作ったり、風呂をたいたりしたとき炭で、火鉢といってそこであぶっただけだった。今と比べると暖かくなかったね。

「昔は、どんなものを使って勉強をしましたが。」

鉛筆はありました。紙もありました。立派な本とか帳面はありませんでした。

「あの図は、いつ手に入れたのですか。」

図を描く専門の人が、古い方は、今から百十年ぐらい前に、この図面を描いて。こっちは計画、この図面を描いて、新しい方は、できあがってからのので、ちょうど百年ぐらいかな。これはずっと市民館に保

存してありました。これは市民館から借りてきました。

「いつも、どんなものを食べていましたか。」

おやつは、お菓子は、ありませんでした。芋とか馬鈴薯、じゃがいも、冬は芋で芋切り干しを作って、ポケットに入れては遊びに行きました。

「授業の時間は、どれくらいでしたか。」

授業は、今よりも時間数でいえば多かったです。小学校、男女別々だったんだよ。女の子は女の子だけのクラスでした。そういう時代でした。

「そのときは、為治郎さんは居ましたか。」

為治郎さんは昭和六年、西暦千九百三十一年に亡くなっています。亡くなって二年してから銅像を造ったので、私が小さいときには銅像もありませんでした。

「昔の食べ物、おいしかったですか。ま

ずかったですか。」
 食べる物は、腹が減れば、どんなものでもおいしくなります。腹がすかないとおいしいものを食べても、おいしく感じません。みんなも給食の前に走って腹を減らすと給食がおいしくなります。昔の食べ物、今の子どもに食べさせると食べないでしょう。ごはんも、六割がお米で、あと四割は麦です。弁当箱に入れても黒いのです。お米だけだと白いよね。麦を入れると黒くなります。そういうのも食べました。戦後は、給食もありませんでした。おじいさんも中学にいったけれど名古屋の方から焼け出されて、疎開と言って野田へ来ていました。食べる物がなくて昼食のときに昼になると学校の近くの林の所ですくんでいました。食べる物がないので、弁当も持っては来れない子が何人もいました。

「時間^{じかん}は、どうやってみていたのですか。」

時間^{じかん}は、時計^{とけい}はありました。今^{いま}は、市^しのチャイムがなりますね。昔^{むかし}は、そういものはありませんでした。お寺^{てら}の鐘^{かね}が鳴^なったなあ。五時^{ごじ}とかの時間^{じかん}に鳴^なりました。

もういいかな。これで終^おわります。

